

○校内研究授業：令和5年2月1日（水） 2校時(40分) 1年7組

○科目：地理総合

○単元名：「自然災害と防災」

○学習のねらい：単元の概観と課題設定から学習成果の共有と自己評価までの学習の中で、我が国を中心として、世界で見られる自然災害や生徒自身の生活圏で見られる自然災害を基に、その仕組み・規模・頻度や、それらに対する地域性を踏まえた備えについての理解と、その対策としてハザードマップなど各種地理情報を活用する技能を自ら身に付ける。また、自然及び社会的条件との関わりや、それらを地域間で比較して浮かび上がる共通点や差異に着目して、あるいは持続可能な地域づくりという視点を持って、主題を設定しながら自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、他者との考えの共有や議論を通じてそれらを深める。

基軸となる問い：「自然災害について、私たちは何を知り、何を為すべきか。」

○単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
十分満足できる(A)	日本の自然環境と自然災害、防災・減災への取り組みを十分理解するとともに、地図や地理情報システム、その他諸資料を適切に活用して、自然災害に関する様々な情報を防災・減災上効果的に調べる技能を身に付けている。	日本の自然環境と自然災害、防災・減災への取り組みに関わる事象の意義や特徴、相互の関連などを、地理的なものの見方・考え方を活かして多面的・多角的に考察し、他者に説明したり、他者との情報共有で考察を発展させたりしている。	日本の自然環境と自然災害、防災・減災への取り組みについて学ぶ中で、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究し解決しようとしたり、自身もその主体であるという自覚をもったりしている。
概ね満足できる(B)	日本の自然環境と自然災害、防災・減災への取り組みを理解するとともに、地図や地理情報システム、その他諸資料を活用して、自然災害に関する様々な情報を調べる技能を身に付けている。	日本の自然環境と自然災害、防災・減災への取り組みに関わる事象の意義や特徴、相互の関連などを、地理的なものの見方・考え方を活かして考察し、他者に説明したり、他者との情報共有をしたりしている。	日本の自然環境と自然災害、防災・減災への取り組みについて学ぶ中で、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
努力を要する(C)	日本の自然環境と自然災害、防災・減災への取り組みを理解できず、地図や地理情報システム、その他諸資料を活用して、自然災害に関する様々な情報を調べる技能を身に付けていない。	日本の自然環境と自然災害、防災・減災への取り組みに関わる事象の意義や特徴、相互の関連などを考察できず、他者に説明したり、他者との情報共有をしたりすることができていない。	日本の自然環境と自然災害、防災・減災への取り組みについて学ぶ中で、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしていない。

○単元の指導と評価の計画

①：知識・技能 ②：思考・判断・表現 ③：主体的に学習に取り組む態度 ○：記録に残す評価

時間	学習項目	学習活動	指導上のねらい	評価の観点			評価の規準 ※(B)規準	評価の方法
				①	②	③		
1	単元学習の導入	<ul style="list-style-type: none"> 教材を一読して、学習する内容を確認しながら、この単元での自らの学習課題を設定する。 以上をスプレッドシートに入力し他者と共有する。その後、OPPに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元を概観させ、学習活動と、習得すべき知識や身に付けるべき力のイメージを獲得させながら、単元の学びに向かう姿勢を準備させる。また、他者との考えの共有によって、それらに幅を持たせる。 			○	<ul style="list-style-type: none"> 単元の内容を踏まえて、本単元に対するイメージを持ち、学習する際の目標や解決したい疑問などを追究している。 	<ul style="list-style-type: none"> OPPシート(③)

2	<p>自然環境によって起こる自然災害に対し、心得ておくべきことは何か。</p> <p>日本の自然環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら基礎知識を習得する。 ・動画を視聴し補足説明を聞く。 ・自身の考えをまとめ、意見交換の後、OPPに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の自然環境と自然災害の関係性や、災害の実態を理解させ、環境や国家、地域社会などに着目しながら我々がすべき備えを考察させる。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境によって起こる自然災害に対し、地理的なものの見方・考え方を活かして自らの見解を形成し表現している。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ・OPPシート(②) ・定期試験(①②)
3 ・ 4	<p>①地震の脅威に対し、私たちはどのような知識・認識を身に付け、何をすべきか。</p> <p>②GIS・ハザードマップに触れ、自然災害に関する活用スキルを伸ばそう。</p> <p>地震・津波／防災におけるGIS・ハザードマップ活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら基礎知識を習得する。 ・動画を視聴し補足説明を聞く。 ・Web上でHMに触れ、操作や活かし方を学ぶ。 ・自身の考えをまとめ、意見交換の後、OPPに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震によって引き起こされる様々な災害とその被害を理解させる。 ・GISやHMの使い方の基礎を身に付けさせる。 ・上記の知識や技能を踏まえながら、自身の地震に対応する行動を考えさせる。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地震による災害に関する知識や、HM等を活用する技術を駆使し、地理的なものの見方・考え方を活かして自らの見解を形成し表現している。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ・OPPシート(②) ・定期試験(①②)
5	<p>①日本で発生する火山災害は、どのような被害をもたらし、どう対策されてきたか。</p> <p>②GIS・ハザードマップによって、火山災害のリスクを分析し、対応を考えよう。</p> <p>火山災害と対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら基礎知識を習得する。 ・動画を視聴し補足説明を聞く。 ・HMを活用しながら自身の考えをまとめ、意見交換の後、OPPに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火山によって引き起こされる様々な被害と、その実例を理解させる。 ・HMを使い、日本での火山災害の被害範囲や内容を考察させる。 ・上記の理解や考察を踏まえながら、火山災害への対応を考えさせる。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・火山災害に関する知識や、HM等を活用する技術を駆使し、地理的なものの見方・考え方を活かして自らの見解を形成し表現している。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ・OPPシート(②) ・定期試験(①②)
6 ※ 本 時	<p>①日本で発生する風水害は、どのような被害をもたらし、どう対策されてきたか。</p> <p>②GIS・ハザードマップによって、風水害のリスクを分析し、対応を考えよう。</p> <p>風水害と対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら基礎知識を習得する。 ・動画を視聴し補足説明を聞く。 ・HMを活用しながら自身の考えをまとめ、意見交換の後、OPPに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・台風や豪雨等によって引き起こされる様々な被害とその対策、それらの具体例を理解させる。 ・HMを使い、神奈川県内の風水害のリスクを考察させる。 ・上記の理解や考察を踏まえながら、風水害への対応を考えさせる。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害に関する知識や、HM等を活用する技術を駆使し、地理的なものの見方・考え方を活かして自らの見解を形成し表現している。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ・OPPシート(②) ・定期試験(①②)
7	<p>①日本で発生する雪害や高温は、どのような被害をもたらし、どう対策されてきたか。</p> <p>②GISや気象情報等によって、雪害や高温のリスクを分析し、対応を考えよう。</p> <p>雪害・高温と対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら基礎知識を習得する。 ・動画を視聴し補足説明を聞く。 ・地形図や気象情報等を活用しながら自身の考えをまとめ、意見交換の後、OPPに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪害や高温によって引き起こされる様々な被害とその対策、それらの具体例を理解させる。 ・地形図や気象情報の活用法を身に付けさせる。 ・上記の理解や考察を踏まえながら、雪害や高温への対応を考えさせる。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・雪害や高温に関する知識や、地形図や気象情報を活用する技術を駆使し、地理的なものの見方・考え方を活かして自らの見解を形成し表現している。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ・OPPシート(②) ・定期試験(①②)

8	自然災害による被害を軽減し、皆で生きるため、今後すべきことは何か。	○	○	○	・災害に強い地域社会づくりについて、地理的なものの見方・考え方を活かして自らの見解を形成し表現している。(②)	・OPPシート(②) ・定期試験(①②)
	防災・減災への取り組み	・自ら基礎知識を習得する。 ・動画を視聴し補足説明を聞く。 ・地域社会での今後の防災・減災についての自身の考えをまとめ、意見交換の後、OPPに記述する。	・共助や公助の考え方や、それらに基づく社会の活動を理解させる。 ・地域の結び付きや持続可能な社会づくりという視点を加え、今後の防災・減災の在り方を考えさせる。			
9	単元学習のまとめ	○		○	・自分事として、今後の国家や社会の防災・減災の在り方やその課題を、主体的に追究しようとしている。(③)	・OPPシート(③)
		・これまでの学びから、理解したことや残った疑問などを文章化し、OPPとスプレッドシートに記入する。 ・スプレッドシート上にある他者の学びの成果も読み、単元学習全体を振り返り、自己評価する。	・これまでに習得した知識や自身の理解を踏まえ、他者との情報共有を通じて単元全体の学習成果を深めさせる。 ・自身の学習姿勢や学習成果を振り返らせながら、今後の学びへの意欲とともに、よりよい社会の実現をめざす意欲を得させる。			

○本時の展開 (40分授業)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の方法
導入 (10分)	○OPPを受け取り、前時の自身の成果や評価点を確認する。 ○周囲と、学習範囲に関する基礎知識(用語)を確認する。 ○本時の学習活動・学習目標を確認する。	○OPPの返却時に、前時の内容に触れながら評価ポイントを具体的に説明する。 ○基礎知識(用語)を確認させる際には、3人以上で行うことを指示するとともに、間違いやすいポイントには注意を促す。 ○学習目標は、自身の居住地だけでなく、あらゆる場所で風水害を考える力を身に付けることであることを強調する。	○定期試験の得点(知・技)
展開① (10分)	○風水害の具体例やそれらの対策について、動画を視聴したり、補足説明を聞いたりする。	○風水害の具体例やそれらの対策についての動画等の資料は、被害の特徴や地域性、年代などが偏らないよう留意しながら厳選する。	○定期試験の得点(知・技)
展開② (20分)	○GISやハザードマップを使い、瀬谷区内や境川周辺を除き、神奈川県内で風水害リスクのある場所を見つけ、具体的な被害や対策を考察する。 ○4人程度の班をつくり、上記の個別成果を共有・意見交換する。	○風水害リスクのある場所とは、河川や海に隣接するところに限定されるわけではないことを伝える。 ○モニターに表示した地図情報等は、そのまま情報共通で活用するよう促す。 ○場所を見つけられない生徒に対しては、GISの機能や、各市町村がハザードマップを公開していることを思い出させる。 ○まとめの段階に早く移行しようとして、成果共有を不十分にしないよう注意する。	○定期試験の得点(思・判・表)
まとめ (0分)	○OPPに本時の学習成果を記入する。	○短縮授業であることを踏まえ、授業時間内に書ききれない場合は授業時間外の提出を受け付けることを伝え、不十分な記述にならないよう促す。	○OPPシートの記述内容(思・判・表)